

CSR report

クラウン・パッケージ
CSRレポート 2024

サステナブルなパッケージで
地域の暮らしを快適に



B.LEAGUEのプロバスケットボールチーム シーホース三河の試合で 「ペリッとラミ」体験を実施

クラウン・パッケージはプロバスケットボールチーム「シーホース三河」のゲームスポンサーとして、スポーツを通じた地域交流の活性化を支援しました。また、試合会場で営業する飲食店などに新しいコンセプトのエコ容器「ペリッとラミ」を提供することで、食事後のごみの分別を容易にするとともに、消費者が資源循環に気軽に参加できる機会を提供しました。



地域貢献

地元愛知のバスケットボールチームを応援、
イベントを通じて地域交流



エコ容器
「ペリッとラミ®」とは

フィルム部分をペリッととはがすだけ。
紙とフィルムが簡単に分別できます。
ソースや油で汚れた部分をフィルムと
いっしょにはがすことで、
きれいな紙の部分は
リサイクルすることができます。



環境配慮

「ペリッとラミ」の分別で
紙製食品容器のリサイクルを推進



安全・衛生



FSSC22000認証を取得した
工場で紙製容器を製造



ペリッとラミ体験アンケート

「ペリッとラミ」を
“うまくはがせた”と
回答した方

93.7%

“今後も
「ペリッとラミ」を使用した
トレーを分別したい”と
回答した方

94.7%

*「そう思う」と回答した方(70.7%)と「ややそう思う」と回答した方(24.0%)の合計



目次

- 01** 地域社会とのつながり／目次
- 03** あゆみ
- 05** トップコミットメント
- 07** 執行役員メッセージ
- 09** 私たちのCSR宣言
- 11** CSRに対する考え方
- 13** 環境に関わる活動
- 15** 社会に関わる活動
- 18** 企業統治に関わる活動

編集方針

本レポートは、お客様やお取引先様、従業員を含む幅広いステークホルダーの皆様に、クラウン・パッケージのビジョンやサステナビリティについての取り組み状況をわかりやすくお伝えすることを目的に発行しました。

対象範囲

株式会社クラウン・パッケージ

対象期間

2023年4月1日～2024年3月31日
 (2023年度の実績を中心に一部本期間前後の情報を含め報告しています)

発行月	2024年10月
次回発行予定	2025年10月

社会に寄り添うパッケージづくり

62年 のあゆみ

1990s

日本で初めて段ボールによる 安心・衛生的な食品容器開発

- 発泡スチロールに代わる素材として、クッション性と断熱機能を備えた極薄段ボール「マイクロフルート」を開発
- 薄くて水にも油にも強い機能が強み
- 防虫、防塵を施した衛生的で安心・安全な工場が生産
- 多彩な印刷、機能の組み合わせで多くの飲食店やレジャー施設の食品容器に採用

関連する
社会情勢

- ▶ 最終処分場不足でゴミ問題がひっ迫
- ▶ ゴみの削減を目的に容器包装リサイクル法が施行
- ▶ 発泡スチロールを紙素材で代替する動きが加速
- ▶ ファストフードが流行し、紙製食品容器のニーズが高まる

マイクロフルート製食品容器



2000s

使用済み資源を再生した素材で 環境貢献を見える形に

- 使用済みの資源を再利用したエコロジーペーパー「スマートパピエ」の開発を強化
- 日本で初めて「パームヤシカサパルプ」を使った「パームヤシックス®」を開発・販売
- ファッショナブルなエコ素材として環境に貢献

関連する
社会情勢

- ▶ 容器包装リサイクル法完全施行

一つの箱で輸送と販売促進を両立する 日本初のシェルフレディパッケージング開発

- 輸送時の包装がそのまま店頭の陳列棚になる輸送兼陳列箱「バリットボックス」を開発
- カッター不要で誰でも安全・簡単に開封でき、品出し時間短縮
- 美しい見た目とPOPで商品訴求力アップ
- 外箱が不要、かつ軽量化で省資源

関連する
社会情勢

- ▶ 消費マインドの向上で人手不足が顕在化
- ▶ 「シェルフレディパッケージング」が欧州で流行



スマートパピエ®



バリットボックス®

200億円
突破

1990s

1962

1970

1980

1990

新たなパッケージ文化の創造をめざす

2024



カラフルウィッシュ®の原料となる折り鶴

ピュアパーム®モールド



ポストインボックス®

2020s

ネットショッピングに適したパッケージを開発

- マイクロフルートの薄さ、強度がポストインサイズに最適
- ビニール製の気泡緩衝材に代わる段ボール製緩衝材でプラゴミ削減
- 梱包に時間がかからない形状が大量発送ユーザーに好評
- 梱包しやすい、開けやすい梱包に特化したテーブルス形状を開発
- 形状とデザイン性で送る側の想いを伝える通販パッケージ

関連する社会情勢

- ▶ コロナ禍でネットショッピングが拡大し、通販用パッケージの需要が高まる

木材パルプ0%のサステナブルな素材を開発

- マレーシアに合弁会社を設立し、「ピュアパームモールド」を製造
- パームヤシカサを廃棄せずに有効活用することで温室効果ガスの発生を抑制
- 木材パルプ使用0%のサステナブル素材
- RSPO準会員としてパーム油の持続可能な生産と調達を応援

関連する社会情勢

- ▶ パーム油の消費量が世界的に拡大
- ▶ パーム油を搾油した後のヤシカサが大量廃棄され環境汚染の一因に
- ▶ パリ協定において各国が宣言した気候変動対策が活発になる

2010s

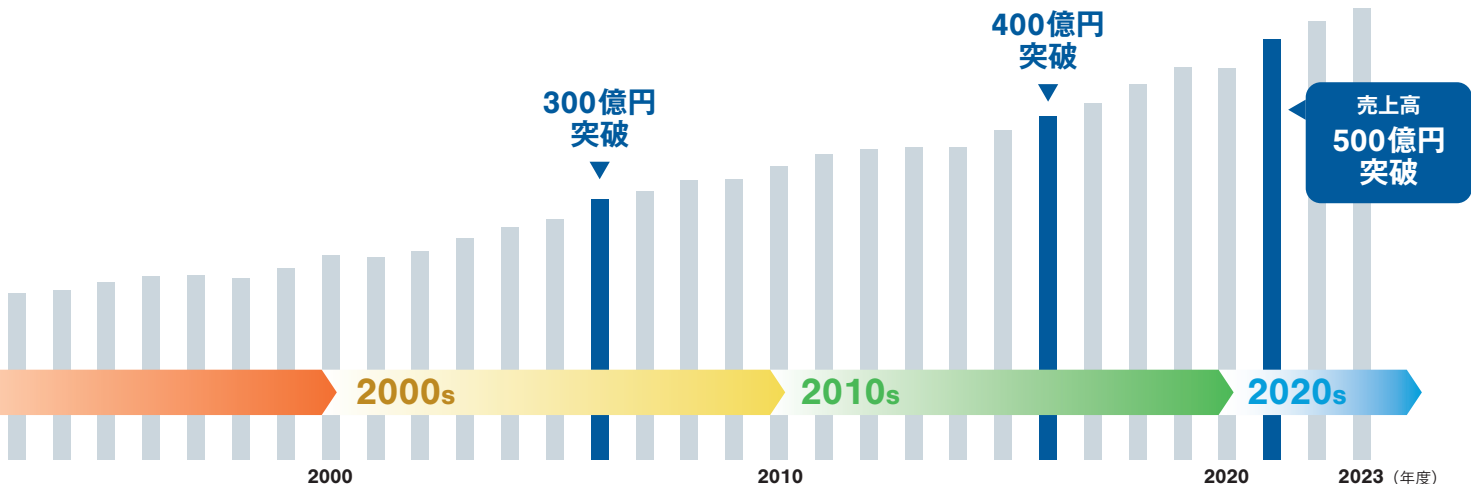
広島平和記念公園の折り鶴を再資源化し、雇用創出にも貢献

- 広島平和記念公園に毎年約1000万羽届けられる折り鶴を再資源化
- 折り鶴を段ボール用の紙素材「カラフルウィッシュ」に再生
- 分別作業を社会福祉施設で行い雇用を創出
- 「折り鶴の再生・循環プロジェクト」を発足

関連する社会情勢

- ▶ 2015年にSDGs(持続可能な開発目標)が国連で採択される

カラフルウィッシュ®





トップコミットメント

時代の変化を見極め
パッケージ事業を通じて
社会課題の解決に貢献します。

代表取締役社長
佐光 恵藏

第三者ESG評価「アスエネESG」にて ゴールドアワードを受賞

当社はアスエネ株式会社が提供するESG評価クラウドサービス「アスエネESG」において、評価区分が上位5%以上の企業のみ与えられるゴールドアワードを受賞しました。

当社にとっても「環境」「人権の尊重」「ダイバーシティ」「ガバナンス」など非財務分野における企業価値の向上をめざすべく、第三者評価を活用しながらこれらの課題解決に真摯に取り組んでいきます。

*アスエネESG：企業のサプライチェーンのESG（E：環境、S：社会、G：ガバナンス）経営の取り組みを可視化できるESG評価プラットフォーム。



時代とともに変化する期待に応える

近年、企業が環境に配慮することはもはや当たり前となり、さらに広く社会課題の解決に取り組む企業が増えていることを実感します。

当社においても、「薄い、軽い、かさばらない」超極薄段ボールの「マイクロフルート」やワンアクションで仕切が完成する「スキップ」などの商品は、物流におけるCO₂排出量の削減にとどまらず、作業の負担を軽減して労働時間の短縮につながることも改めて注目をいただいています。また、広島平和記念公園などに寄贈された折り鶴を紙の原料の一部として再生した「カラフルウイッシュ」は、その製造工程で発生する折り鶴の分別作業を社会福祉施設に委託することで新たな雇用も生まれています。私たちが「箱から始める社会貢献」と呼んでいるこの取り組みに共感いただくお客様も多く、「カラフルウイッシュ」の注文や問い合わせが増えていきます。

時代の移り変わりとともに、当社の商品に対する期待も変化してきており、その変化を感じ取るためには、CSR(サステナビリティ)を意識した視点、考え方が重要になります。CSRに関わる活動を進めながら、時代の要請に合わせて自社製品の見直しや新たなチャレンジを行い、お客様とともにさまざまな社会課題の解決に挑んでいきます。

CSRビジョン2030の目標達成に向けた取り組み

当社では、外国籍の方の積極的な採用や、障がいのある方の雇用創出として外部機関への農園事業へ参画し、東京事業所に2園目となるクラウン工園を開園するなどして、ダイバーシティ雇用は2023年度末で20%弱となっています。お客様の期待に応えるイノベーションを生み出し競争力を高めていくために、引き続き多様性を尊重した人材の登用に注力していきます。また従業員の定着率を向上させるために、女性や子育て世代が活躍できる企業風土の醸成に取り組んでいます。ワークライフバランスを推進するため、2023年9月に竣工した名古屋営業所に子どもたちが自由に使える多目的ホールを設置して親子一緒に出勤することを可能にしているほか、すでに実績がある埼玉事業所の企業主導型保育施設の運営など、子どもを持つ従業員が安心して働ける環境を整備しています。さらに、若い世代をサポートするため、奨学金の代理返還制度や社員食堂の整備を図り、安心してのびのびと働ける職場づくりにも力を入れています。

一方、環境活動においては、CO₂排出係数の高い重油ボイラーから排出係数の低いLPガスボイラーへの切り替えが全社

でほぼ完了しました。今後は、さらなるCO₂排出量削減に向けてエネルギー使用のムダ、ムラの把握を正確に行うとともに、発電時にCO₂を発生させない再生可能エネルギーの活用も進めてまいります。

ガバナンスの強化については、体制の整備、法令研修などを進めてきましたが、ステークホルダーの皆様との信頼関係を築いていくためにも、CSRレポートやホームページを活用し、社内外に向けた情報発信を積極的に展開していきたいと考えています。

すべての従業員のCSR意識を育む

ここ3年間でCSRに関連する方針整備や体制整備を図った一方、従業員の意識がそれに追いついていないことが当社の課題であると認識しています。特にさまざまな取り組みの成果についてすべての従業員に丁寧な報告を行うことができなかったため、理解を高めることができなかったことは大きな反省点です。CSRレポートや社内報等の既存ツールだけではなく、イントラネット等のITツールなども活用して、各拠点の取り組みをタイムリーに社内でも共有する仕組みを強化し、可能であれば従業員だけではなくそのご家族も知ることができる環境にしたいと考えています。自分たちの仕事、CSRへの取り組みがどのように社会とつながっているのかを実感し、仕事にやりがいや誇りを持つ企業風土をつくり上げていきます。

ステークホルダーの皆様へ

パッケージ商品は、生産拠点のある地域ごとのご要望に応じて生産販売することが多いため、地域のステークホルダーの皆様とのより良い関係があってこそ当社の成長があると考えています。創業当時より「環境に優しいパッケージにて社会に貢献する」を企業理念に掲げ、お客様の課題解決に取り組んでまいりました。環境問題に関しては引き続き高い意識を持ち、一度役目を果たした素材を再利用した「スマートパピエ」、非木材のヤシカサパルプ100%の「ピュアパームモールド」などの環境素材で課題解決に貢献します。そしてCSRビジョン2030の達成に向けて従業員一人ひとりが当事者意識を持ちながら自分ならではの課題解決法を模索し、ゴールに近づいていきます。私自身はクラウン・パッケージのトップとして自らCSRに関する活動の旗振り役を務め、すべてのステークホルダーの皆様から愛され信頼される企業をめざしてまいります。

執行役員メッセージ

従業員のCSR意識を
さらに高め、
「企業文化」の一つとして
根付かせていきます。

執行役員 企画人事部 部長
片桐 登喜夫

3年間の取り組みで見えた成果と課題

当社がCSR推進部署を立ち上げてから3年が経ちました。この間、CSR基本方針やマテリアリティ(重要課題)の策定、具体的な数値目標の設定など、CSR活動に取り組むための制度・方針整備を加速的に進めてきました。一方で、急速に進んだ体制や制度に従業員の意識が追いついていないことが今後の課題と考えています。従業員にCSRへの意識を浸透させ、「企業文化」や「社風」と言えるほどのレベルまで意識を高めることが、全社CSR推進のリーダーとしての自分の最も重要な役割と認識しています。そこで、CSR活動を推進する立場にある役員や管理職に向けた研修や勉強会を開催し、意識改革を進めています。

また、全従業員が自分たちの仕事にCSRが密接に関係し、企業価値や収益性の向上に欠かせないものであることを理解することが、大切だと考えています。そのためには、「CSRビジョン2030をはじめとしたCSRに関する目標達成が当社の企業価値を向上させ、その先にある社会的な評価が新たな利益を生み出し、優秀な人材を集め、さらにCSR経営が加速する」—このような好循環が見える化し、従業員一人ひとりの心に刺さるように

することが意識改革につながると考え、さまざまな施策を展開しているところです。

意欲的な情報の受発信を通じて 活動事例を社内外で共有する

ものづくりの会社である当社にとって、環境負荷低減に関する活動は誰にとっても近いテーマであります。当社の主力製品である段ボールは、もともとリサイクル率が非常に高く循環可能な資材の象徴のようところがあります。また当社では日ごろから製造工程の効率改善やロス削減に努めていたこともあって、特別なことをしなくても環境配慮型の事業であるといったプライドを持っていました。ただ、そのプライドが従業員の意識改革を進めるうえで少しマイナスに影響しており、社会・ガバナンスに関する活動があまり進まなかったのではないかと考えています。

しかし、そうであれば、私が今後なすべきことは明白で、労働安全衛生や地域貢献、あるいは自然災害に対するリスクマネジメントなど、これまで「これもCSR」と意識することなく取り組ん

できた活動も「実はCSR活動だったのか」という気付きを与えて、環境に対する意識と同じレベルまで高めてあげることにはなりません。各事業所や拠点で行われている日常的な活動や目標を達成した事例などをしっかり拾い上げ、当社のCSR活動として社内外に情報発信し、従業員だけではなく取引先や地域住民の方にも共有してもらうことが必要だと考えています。その意味では、このCSRレポートを毎年発行するようになったことは大変意義深いことで、できれば半期、四半期、月次、デイリーと、さらに情報発信の頻度を高めていきたいという想いを持っています。

自分たちの現在地を知り、さらなる高みをめざす

今後さらにCSRに関する活動を進化させていくためには、自分たちの「現在地」を知ること重要です。2023年、CSRに関する活動が、客観的に見た際に他社との比較を含めてどの水準にあるのかを把握するため、外部の「ESG評価サービス」を活用し、診断してもらいました。この外部評価を取り入れたことは、経営層の意識改革を図るうえでも非常に大きな効果があったと思っています。

結果としては「A」評価・ゴールドアワード(その評価サービスを受けた企業の上位5%以内)で、公益通報者保護や腐敗防止に関して方針や仕組みの整備を進めた「ガバナンス」で高い評価を得ました。一方、女性管理職が少ないことなどが影響した「人の多様性」、再生可能エネルギーの導入が他社より遅れ気味の「環境」などに対する評価が低い結果となりました。

この結果を受けて、2024年度には各製造拠点と連携して太陽光発電設備の導入について本格検討に入ったほか、管理職をめざす女性従業員を育成する教育研修の充実にも着手しています。また環境に関する活動では、再生可能エネルギーの導入と同時にCO₂排出量のさらなる削減を図るため、各部署・各拠点に横軸を通す形で省エネや効率の改善に取り組んでいます。このような取り組みを進め、上位1%以内のプラチナアワード受賞をめざしていきたいと考えています。

CSRに関する活動を強化してから3年、そろそろ当社にもCSR経営が根付くための土壌が育まれ、周囲を見渡せば、当社よりも早くからCSRに取り組んできた企業の後ろ姿も視界に捉えられるようになりました。

私たちはこれからも、CSRビジョン2030の達成に向けて、全社一丸となって取り組んでまいります。この先にある私たちの「伸びしろ」にご期待いただけますと幸いです。

CSRビジョン2030の進捗

従業員一人ひとりの身近な活動を通じて、社会に貢献していく

カテゴリー	環境 (E)	社会 (S)	企業統治 (G)
ビジョン	CO ₂ 総排出量2018年度比 30%削減	多様性を尊重した人材活用	ガバナンスの強化
2023年度の 取り組み	<p>CO₂排出量2018年度比9.0%削減 (前年比3.2%削減)</p> <ul style="list-style-type: none"> ボイラー燃料をLPガスや都市ガスに切り替え エネルギー効率の良い空調設備への更新 工場建屋の屋根や室外機の遮熱対策 	<p>ダイバーシティ雇用率19.9% (前年比0.5%増)</p> <ul style="list-style-type: none"> 製造現場での女性活躍に向けた座談会の実施 クラウン工園の開園(2園目)により障がい者雇用を推進 三富今昔村でのCSR研修で地域社会との調和を研鑽 	<ul style="list-style-type: none"> 各種基本方針制定 (個人情報保護方針、反社会的勢力に対する基本方針、贈収賄防止に関する基本方針、ソーシャルメディア利用規程) 公益通報者保護の体制構築 (クラボス:内部および外部通報制度) 役職員向けコンプライアンス研修の実施 (法務、税務)

クラウン・パッケージの **これから**

環境

労働関連法令を遵守し、従業員が生き生きと働けるように、互いを思いやり、それぞれの立場や意見を尊重し、仕事にやりがいを感じられるように、安全で働きやすく健康的な職場環境をつくり、環境へ配慮した製品づくり、人材の定着で品質の向上を図ります。

東京事業所 製造
米森 仁



ガバナンス

本社 労務
生駒 大佑



社会

従業員が心身ともに健康で成長できる組織をめざして、安全第一の職場をつくるため作業者の目線に立ち設備改造・ルール強化を進めます! 管理職層がイクボスをめざしワークライフバランスを推進し、上司部下ともに心に余裕を持って成長できる組織をめざします!

仙台事業所 製造
川口 雄久



社会

多様な働き方で結果を出す「営業」であるために、社内外問わず相手と信頼関係を築くことを大切にしていきます。

名古屋事業所 営業
白神 まなみ



ガバナンス

食品容器用の素材開発に携わる機会が多いことから、使用する材料について、社内作業員や製品の安全性を第一に考えるとともに第三者機関での試験データをもとに性能面の担保もしっかりと行い、お客様への適切な情報提供を心がけます。

本社 営業開発
小野 満美子



// 私たちの /



各事業所の従業員からCSRのために

環境

岐阜事業所 営業管理
田村 健太郎



環境

段ボールを製造するコルゲーターマシンは当社の抱える機械の中でも大変多くの電力、熱を必要とします。日々のメンテナンスやマシントラブルの情報共有を適切に行うことで機械速度を高め、効率良く生産性を上げていきます。こうした取り組みで環境負荷を減らしていきたいと考えています。

埼玉事業所 製造
松永 智幸



社会

現場の力仕事の緩和を推進します! 製品の大きさに対して落丁や包装形態が適切かどうか等をつねに確認して改善していくことで少しでも負担を軽減して女性の働きやすい現場環境をめざしたいです。

九州事業所 製造 高橋 愛



環境

当社の武器とするマイクロフルートとピュアパームを中心にレス炭素、CO₂削減で他社との差別化提案を進めています。各部署と連携し市場ニーズに合わせた環境配慮型の新製品をリリースし、全国の営業へわかりやすく展開していきます！

本社 営業統括 安藤 宏行



社会

私の所属する課は少人数で業務を回していたため、育休を取得することに正直後ろめたさも感じましたが、上司から快い許可をいただき2カ月間の育休となりました。今後は育児と仕事の両立に励みます！

仙台事業所 デザイン 齋藤 武慶



ガバナンス

「凡事徹底」当たり前のことを、当たり前にする。その当たり前とは何か？不安な行動、状態はないか？をとともに考え、従業員の方々が安心して、安全に働ける職場環境づくり、お客様から信頼されるように貢献します。

本社 製造統括 横山 和成



環境

再製造を減らして、原材料・労力のムダ使いを減らします！

名古屋事業所 品質管理 池田 ころも



社会

昨年より、事業所周辺の清掃活動のほか、廃棄予定のサンプルシートを近隣幼稚園に寄付する取り組みを実施しています。今後は従来の取り組みに加え、地域行事への協賛(食品トレーや駐車場の提供等)を通じ、地域貢献に取り組みます！

大阪事業所 総務 福井 佑治



宣言



実行していくことを発表してもらいます！

社会

女性従業員・外国籍の方の抱えている問題点の改善を進めて働きやすい職場づくりに取り組みます。

大阪事業所 製造 島田 樹里



ガバナンス

本社 企画人事 林 美寿紀



環境

ガバナンス

法令と社内規則を遵守し、最新情報をつねに把握することで、コンプライアンスの羅針盤を持ち、企業の倫理的な行動を支えます。また内部統制の仕組みを理解し、自らの役割を認識することで、ガバナンスのさらなる強化に貢献します！

本社 法務 日沖 圭佑



CO₂削減目標の達成に向けて、『お客様・工場・配送』の全方位に対して、配慮のできる広い視野を持った営業になれるように日頃から意識した活動を心がけます！

神奈川事業所 営業 三浦 光陽



CSRに対する考え方

私たちクラウン・パッケージは「パッケージ文化の創造を通じて持続可能な社会の実現に貢献する」との企業理念のもと、環境に配慮した事業運営や、安全かつ安心して働ける職場づくり、人に配慮した製品の開発に日々邁進しています。CSR経営をより具体的に実現していくための羅針盤として、2021年にマテリアリティを特定しCSR基本方針を定めたほか、全社横断的なCSR推進組織を立ち上げ、活動を進めています。また2030年に向けたCSRビジョン、環境ビジョンを以下のとおり定めています。

CSR基本方針

私たちは永遠のベンチャー企業精神を持ち続け、
未来の当たり前をつくることをめざし、あらゆるステークホルダーの皆様から
愛され信頼される企業活動を行います。

- 1 パッケージを通して社会からの期待に応えるとともに社会課題の解決に取り組みます。
- 2 環境に配慮した事業運営を行い、脱炭素社会、循環型社会の実現に貢献します。
- 3 人権と多様性を尊重し、誰もが生き生きと働き活躍できる職場づくりをめざします。
- 4 高い倫理観のもとコンプライアンスを重視し、公正・公平な企業活動を行います。

▶▶ CSRビジョン2030

 環境 (E)	 社会 (S)	 企業統治 (G)
CO₂総排出量 2018年度比30%削減	多様性を尊重した人材活用 (ダイバーシティ雇用30%以上)^{※1}	ガバナンスの強化 (コンプライアンス、リスク管理、BCP)^{※2}

※1 ダイバーシティ雇用：女性、障がい者、外国籍の方、高齢者の雇用。

※2 コンプライアンス：法令遵守だけでなく倫理的な企業活動も含む。



BCP (Business Continuity Plan：事業継続計画)：自然災害、システム障害など、緊急事態が発生した場合でも重要な業務が継続できる方策を立て、事業継続と復旧を図るための計画。

▶▶ 環境ビジョン2030

重点領域	2030年の目標
温室効果ガス排出量の削減	<ul style="list-style-type: none">▶ CO₂総排出量2018年度比30%削減▶ 再生可能エネルギーの導入と活用
資源循環	<ul style="list-style-type: none">▶ 天然資源の持続可能な利用の推進▶ 廃棄物のリサイクル率99%以上

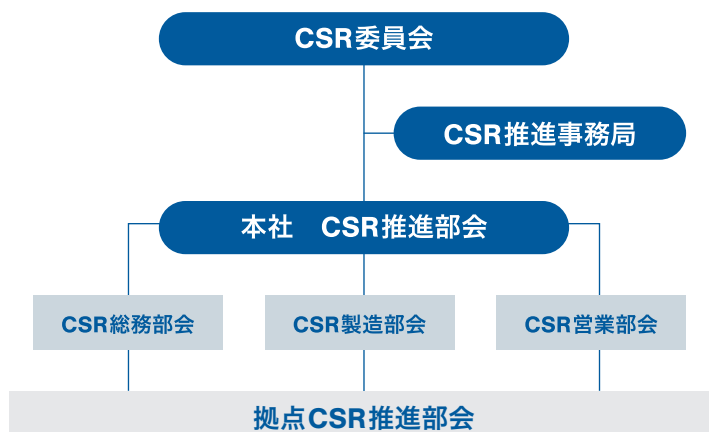
マテリアリティ (重要課題)

マテリアリティとは、CSRに関わる幅広い取り組みのなかで自社の事業活動や社会に与える影響度から判断し、とくに注力すべきものとして特定した課題のことです。当社では、自社にとっての重要度のみならず、各ステークホルダーにとっての重要度を反映してマテリアリティを特定しました。

	マテリアリティ(重要課題)	貢献するSDGs
 環境(E)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境に配慮した事業運営 P13-14へ 	
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境配慮型製品の開発・推進 P14へ 	
 社会(S)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 人権の尊重 ▶ 安心して長く働ける職場環境の整備 ▶ 多様性を尊重した働き方の推進 P15-16へ 	
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 製品の品質向上と安全性の確保 ▶ 社会課題の解決に寄与する製品の開発と推進 P17へ 	
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域社会との調和と社会貢献活動 P17へ 	
 企業統治(G)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 内部統制と透明性の確保 ▶ コンプライアンスの推進 P18へ 	
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ リスク管理 P18へ 	

CSR推進の 取り組み

CSR活動を推進するため、社長をトップにした「CSR委員会」のもとに、部門を横断する「本社CSR推進部会」と専門的な課題対応のため、総務、製造、営業の各「CSR部門部会」を配置し、9つの事業所の「拠点CSR推進部会」と連携しながら、迅速な情報共有と活動の定着を図っています。総務部会では「多様性を尊重した人材活用」、製造部会では「エネルギーロスの削減や高効率機械への切り替え」、営業部会では「レス炭素で差別化提案と時代にあった組織づくり」に取り組んでいます。



2023年度CSR研修会の様子



環境に関わる活動

Environment

環境に配慮した事業運営

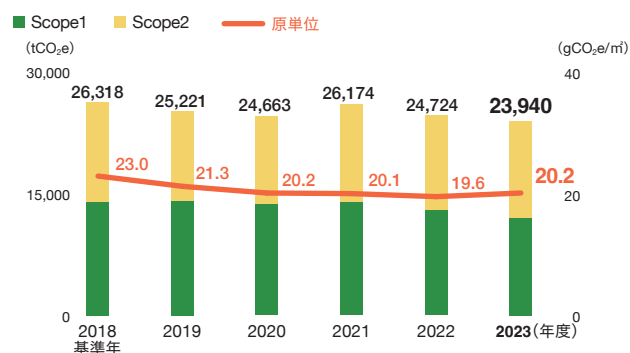
● 環境ビジョン2030達成に向けて、事業全体でCO₂排出量削減を推進

2023年度のCO₂排出量の削減実績は、対前年度比で3.2%減少、CSRビジョン2030の基準年度である2018年度比では9.0%減少という結果になりました。

Scope1(直接排出)においては、2022年度に引き続きCO₂排出係数の高い重油ボイラーから排出係数の低いガスボイラーへの転換を進めたことで、対前年度比7.4%の削減、2018年度比では14.1%の削減となりました。一方、Scope2(エネルギー起源の間接排出)においては、省エネ型空調設備の導入などで年間の総電力使用量を対前年度比1.8%削減したものの、契約電力の排出係数が高めに変更されたことで、CO₂排出量換算では1.5%の増加となりました。

今後は、再生可能エネルギーなどCO₂を排出しない非化石由来のエネルギー利用をすべての拠点で拡大していくことで、Scope2におけるCO₂排出量の削減を進めていきます。

CO₂排出量



● 各拠点で実行しているCO₂排出量削減の取り組み



CO₂ばい煙削減につながったLPガスボイラータンク

▶ 重油ボイラーから都市ガス・LPガスボイラーへ切り替え

2023年度中に、すべての拠点において重油ボイラーからガスボイラーへの切り替えが完了しました。この設備更新によって、Scope1のCO₂排出量が大きく削減できたほか、ばい煙の排出量も削減できました。また、重油の受け入れ作業とタンクの点検作業が不要となり、従業員の労働時間削減にもつながっています。



最新型の空調設備に入れ替えて使用電力量削減

▶ 空調設備の運転効率を向上

各工場内の空調設備について、エネルギー効率の悪い旧式から効率の良い最新型への更新を進めています。2023年度は、7拠点22台の空調設備を最新型に入れ替えました。従来よりも運転効率が高まったことに加え、待機電力も抑えることができ、工場内の使用電力量削減につながっています。



屋根の遮熱塗装で夏場の高温対策

▶ 遮熱対策による消費電力の削減

ここ数年、夏場の高温傾向が続いており、特に工場では外壁や屋根の輻射熱によって室温が上昇しやすく作業環境の悪化につながっていました。当社では、気温上昇への対応として工場建屋の屋根部分や空調設備の室外機に遮熱対策を実施し、空調設備による使用電力量の削減を図っています。



コンプレッサーの集約でエネルギー効率改善

▶ 機械設備の入れ替えや集約による製造効率の改善

当社の使用電力量の中でも、段ボールパッケージの加工で使用する機械設備が大きな比重を占めており、稼働年数が20年を超えるものも多いことから、製造効率の改善とそれに伴う使用電力量の削減を目的に、省エネ性能が高い機械設備への更新を進めています。また、圧縮空気を動力とする加工機は、その動力源(エア源)を集約することで、加工機ごと個別にエア源を設けるよりもエネルギー効率を改善し、電力の削減につなげています。

各拠点での省エネの取り組み



加工機を高速タイプに入れ替えることで製造効率を改善



蒸気配管等の放熱対策による使用電力量の削減



蒸気配管等の照明のLED化やセンサーライト化による使用電力量の削減

環境配慮型製品の開発・推進

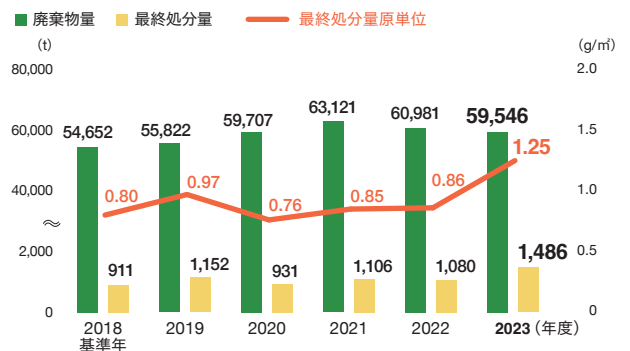
● ピュアパーム®モールドの開発

「ピュアパームモールド」は、未利用資源であるパーム油を搾油した後のヤシカサをパルプ化し、そのパルプを100%使用したアップサイクル製品です。この製品の開発は、貴重な森林資源の節約につながるるとともにヤシカサが投棄されることによって排出される温室効果ガスや土壌汚染の削減にも貢献します。当社はマレーシアの現地企業NGGB社と合併会社を設立し、2023年8月に竣工した新工場で「ピュアパームモールド」を生産しています。

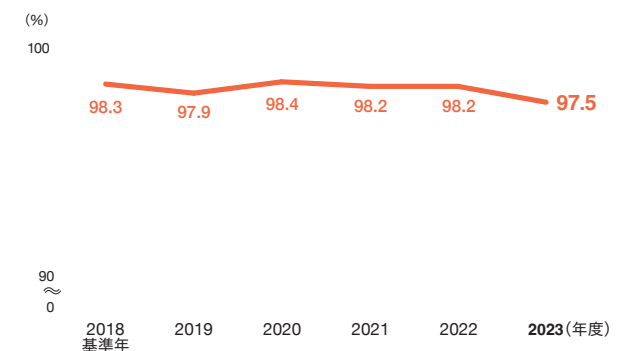


ピュアパームモールド製品例

廃棄物排出量



リサイクル率





社会に関わる活動

Social

安心して長く働ける職場環境の整備

● 事業所内保育施設の近隣に公園を開設

埼玉事業所の事業所内保育施設である「さいたまくらうん保育園」では、子どもたちが遊べる公園が近所がないことが課題となっていました。「公園が遠くて大変」という保育士の皆様の声を受け、2023年5月、事業所内に「さいたまクラウン公園」を新たに開設しました。砂場や遊具はもちろん、休憩場所やシンボルツリーを整備するなど、子どもたちが自然や動物とふれあいながら元気に遊べる場所ができました。



「さいたまクラウン公園」開園式典の様子

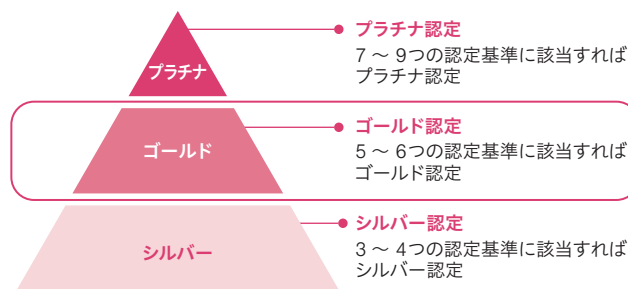
● 岐阜事業所が「可児わくわくWorkプロジェクト」に登録

岐阜県可児市に位置する岐阜事業所は、可児市が実施している「可児わくわくWorkプロジェクト」の令和5年度登録企業となりました。このプロジェクトは、可児市が「働き方の見直し」「ワークライフバランス」の実現に取り組む市内企業を登録して市内外に広くPRすることで、市民と企業とまちがともに発展していくことを目的とした制度です。岐阜事業所で実施しているボランティアなどの地域活動や従業員相談窓口の積極的な活用などの施策が評価され、今回の登録に至りました。



● 埼玉事業所が県の「多様な働き方実践企業」のゴールド認定を取得

当社の埼玉事業所は、埼玉県が実施している「多様な働き方実践企業」認定制度に申請し、ゴールド認定を受けました。この制度は、県内で事業を展開する企業の仕事と生活の両立を支援するため、テレワークや短時間勤務など多様な働き方を実践している企業を「プラチナ」「ゴールド」「シルバー」の3段階で認定する埼玉県独自の制度です。埼玉事業所で実施している保育施設や多様な働き方に対する取り組みが評価され、今回の認定となりました。



● 奨学金返還支援（代理返還）制度に加入

近年、奨学金を借りて大学に進学した人が就職後にその返還の負担で悩むことが多くなっていることを受け、2021年4月に日本学生支援機構が実施している「奨学金返還支援（代理返還）制度」に加入し、若手従業員の負担軽減を図っています。この制度は、奨学金を受けていた従業員の返還金額の一部または全額を企業が代理返還する制度で、当社では一人当たり最大250万円の支援をしています。加入から2024年3月までに66名の従業員がこの制度を利用しています。

期	支援対象	支援金額
第1期	入社5年目(入社4年0カ月経過時)	最大 50万円
第2期	入社8年目(入社7年0カ月経過時)	最大100万円
第3期	入社12年目(入社11年0カ月経過時)	最大100万円
総額(1人当たり)		最大250万円

● 製造現場の「働きやすい環境」を整備

当社は、工場等の製造現場で働く従業員にとって「働きやすい環境」の実現をめざし、各拠点において施設のリニューアルを積極的に行っています。2023年度は、名古屋事業所に多目的スペースを新たに設置したほか、東京事業所の社員食堂、大阪事業所の事務所のリニューアルなどを実施しました。居心地の良いきれいな環境に生まれ変わったことで、従業員同士のコミュニケーションの活性化にもつながっています。



東京事業所「社員食堂リニューアル」



名古屋事業所「多目的スペース増設」



大阪事業所「事務所リニューアル」

多様性を尊重した働き方の推進

● 製造現場で働く女性従業員同士の座談会を実施

当社は、仕事と生活の両立をより一層向上させ、男女ともに活躍できる職場環境の整備と多様性を尊重した働き方を推進しています。2023年度は、女性活躍推進の一環として、各事業所の製造現場で働く女性従業員による座談会を計4回開催し、現場で働く際の悩みや、働きやすく生産性の高い職場にするための情報交換・意見交換を行いました。今後、この取り組みを管理部門等へ展開し、誰もが最大のパフォーマンスを発揮できる職場環境の実現をめざします。



ダイバーシティ推進プロジェクトの様子

座談会参加者の声

普段ほかの拠点と関わりがほとんどないため、とても貴重な時間を過ごせました。同じ現場で働く女性と顔を合わせてさまざまな意見を聞いたことで、仕事に対するモチベーションも上がりました。

ほかの拠点の方も、悩んでいることや考えていることが一緒でした。一緒だったからこそ今後どう改善していくべきか、少しでも解決策が見えてきた気がしました。



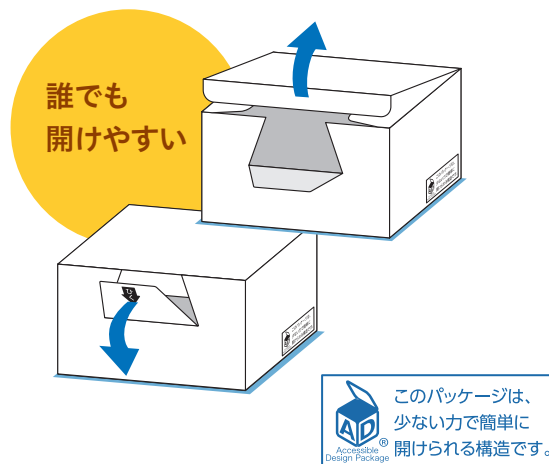
座談会の様子

社会課題の解決に寄与する製品の開発と推進

● アクセシブルデザイン

老若男女を問わず、あらゆる人が使いやすく利便性の高いパッケージを実現するため、当社では誰もが簡単に使えるように配慮された「アクセシブルデザイン」の利用と普及を促進しています。具体的には、開け閉めや解体の動作を誘導する表示や形状の目的を誰でもわかりやすく表示することで、多くの人に使いやすいパッケージになります。このアクセシブルデザインの基準を満たしたパッケージにはADマークを表示して消費者の皆様によりわかりやすくアピールできます。

当社は、今後も誰にとっても使いやすく、その利便性を感じられるパッケージ商品をご提供していくため、アクセシブルデザイン形状のラインナップを増やすとともに、その普及にも努めていきます。



地域社会との調和と社会貢献活動

● 循環型社会の実現に向けたCSR研修会を実施

2023年11月、埼玉県で産業廃棄物中間処理とともに環境教育や資源循環のコンサルティング事業を営む石坂産業(株)が運営する「三富今昔村」を訪問し、循環型社会の実現について考えるCSR研修会を実施しました。

社長をはじめ経営層と全社のCSR推進メンバーが参加し、工場見学や持続性への考え方を学びながら、当社の事業や課題がSDGs17のゴールとどう関係しているのかをグループ討議しました。慣れない視点での討議に苦勞しながらも、新しい気づきを得ることができました。



CSR研修会の様子

社会関連データ

従業員数



1,906名
男性 1,515名
女性 391名

平均年齢



男性 **36.4歳**
女性 **35.5歳**

平均勤続年数



男性 **13年1カ月**
女性 **8年11カ月**

管理職比率



男性 **99.3%**
女性 **0.7%**

新卒採用数



男性 **43名**
女性 **21名**

中途採用数



男性 **167名**
女性 **51名**

障がい者雇用率



3.13%

有給休暇取得率



61.0%

育休取得者数



男性 **21名**
女性 **13名**

*すべてクラウン・パッケージ単体での計算。



企業統治に関わる活動

Governance

コンプライアンスの推進

● 各種基本方針の制定

当社では2024年にコンプライアンス推進に関わる4つの基本方針を新たに制定しました。

こうした基本方針を制定することで、当社が不正や犯罪に一切関与せず、反社会的勢力を排除しようとする地域社会と足並みをそろえていくという意思を社内外に明示し、当社とお取引いただく企業および個人の皆様から信頼される企業をめざしています。

2023年に制定した基本方針

- ▶ 個人情報保護方針
- ▶ 反社会的勢力に対する基本方針
- ▶ 贈収賄防止に関する基本方針
- ▶ ソーシャルメディア利用規程



反社会的勢力対応講習の様子

● 役職員向けコンプライアンス講習

従業員の法令遵守意識を高めるために、まずは経営層によるコンプライアンス知識の習得が重要であると考え、社外の専門家を講師に迎えた役員向けコンプライアンス講習に力を入れています。2023年度は、税理士による税務コンプライアンス講習、弁護士による法務講習、全国暴力追放運動推進センター理事による反社会的勢力対応講習などを実施しました。今後、同様の講習を管理職層へも展開することで社内浸透を図っていきます。

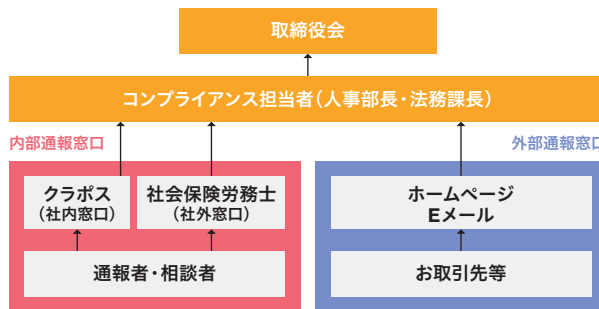


税務コンプライアンス講習の様子

● 公益通報者保護の体制構築

当社は、公益通報者保護法に基づき内部通報窓口を設置しています。今回「クラボス」という愛称を付けてリニューアルすることで従業員がより利用しやすい制度としました。

なお、通報を受けた事案について、調査により法令違反等の不正行為が明らかになった場合には、厳正な処分を行うとともに、速やかな是正措置と再発防止策を講じます。また、通報者に対する不利益な取り扱いを防ぐための措置も講じています。



リスク管理

● リスクアセスメントの実施

2023年度は、2024年度に想定されるリスクに備えてさまざまな対策を実施しました。

いわゆる「物流の2024年問題」に起因するドライバー不足や配送遅延対策として、運送会社との連携を強化するとともに社内における受注から生産、出荷に至るまでのプロセス見直しに部門横断で取り組んでいます。また、2022年6月に施行された改正公益通報者保護法に則って、内部通報制度の運用体制を強化しました。

2024年度に向けたリスクアセスメント

自然災害・事故
2項目

財務・経理
1項目

運輸・物流
1項目

人事・労務
(就業・安全)
3項目

会社概要

商号 株式会社クラウン・パッケージ
 本社所在地 〒485-8654 愛知県小牧市小針三丁目67番地
 創立 1962年6月15日
 資本金 1億円
 従業員数 2,321名(グループ全体) 1,906名(単体)
 関連会社 株式会社 包む
 クラウンパッケージ販売 株式会社
 株式会社 コダマサービス
 株式会社 ヒューマンエコーズ
 株式会社 オカモト紙工
 Nextgreen Crowning Package Pulp Molding Sdn. Bhd.

Webサイトのご案内

詳細情報(事業活動やCSRの取り組み情報など)につきましては、当社Webサイトをご覧ください。
<https://www.crown-grp.co.jp/sustainability/>

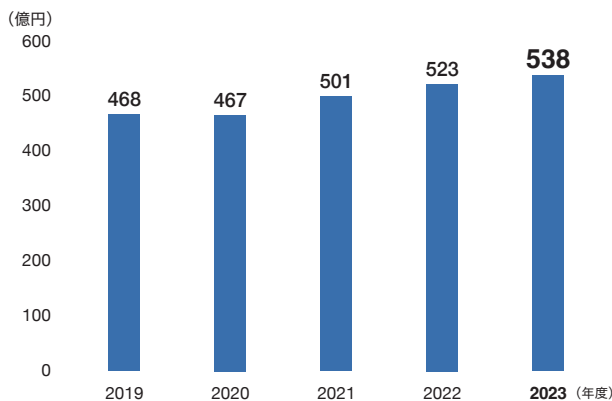


表紙について

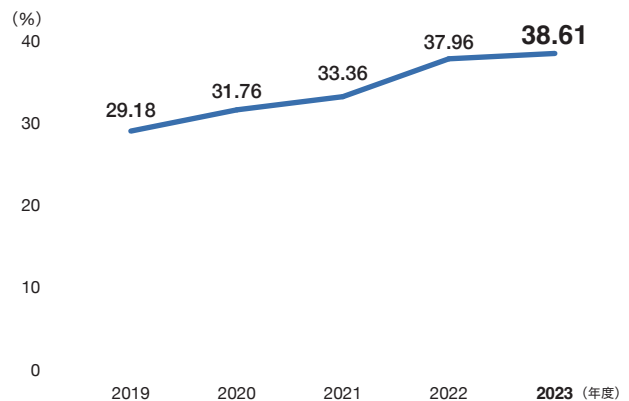
当社は事業を通じた社会貢献をテーマに、地域の暮らしを快適にするようなCSR活動に取り組んでいます。多くのステークホルダーの皆様に当社のCSR活動を理解していただくため、表紙には、今年度行った地域社会に寄り添ったCSR活動の取り組みについて掲載しています。今後も、パッケージ文化の創造を通じて、サステナブルな地域社会への貢献に取り組んでいきます。



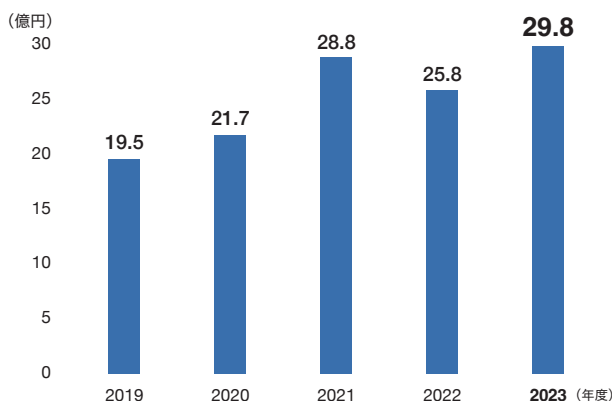
売上高



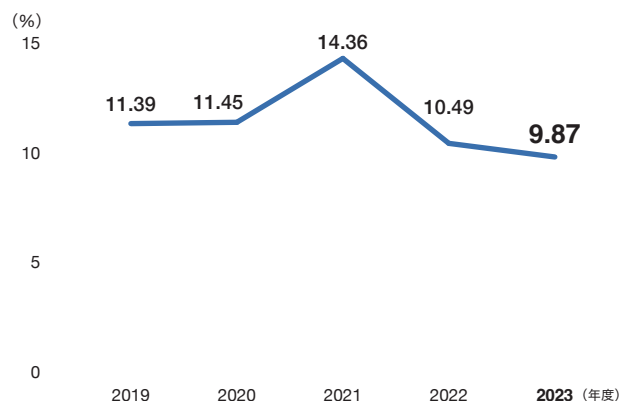
自己資本比率



経常利益



ROE



クラウン・パッケージは限りある地球環境の保全に積極的に取り組んでいます。本レポートは、環境に配慮したFSC®認証紙を使用しており、グリーンプリンティング認定の印刷工場で作成されました。

クラウン・パッケージは、海と日本PROJECT推進パートナーです。

ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づき、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。